

令和3年度事業計画

I 方針

昨年3月に今後10年程度を見通した「食料・農業・農村基本計画」、「酪農及び肉用牛生産の振興のための基本方針」が策定され、同年12月には、農林水産政策改革のグランドデザインである「農林水産業・地域の活力創造プラン」が改訂された。これらの中では、食料自給率の向上にむけ、国産飼料基盤に立脚した畜産を振興していくことが重要な課題として取り上げられている。また、我が国の畜産を巡る国際環境が大きく変化する中、長期的な畜産物輸入関税の低下に対応できる足腰の強い畜産経営の育成のためには、生産コストの多くを占める飼料コストの低減と輸入畜産物との差別化が可能な生産方式の導入が求められている。

加えて、国では、SDGsや環境の重要性が国内外で高まる中、2050年までに目指す姿として、化学農薬・化学肥料の削減、有機農業の面積の拡大等を掲げ、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現していくための「みどりの食料システム戦略」を本年5月までに策定するべく検討が進められている。この中では、畜産における環境負荷低減の取組として、ICT機器の活用や放牧の普及、耐暑性・耐湿性の飼料作物品種の開発による自給飼料の生産拡大等が掲げられている。また、米政策については、在庫の過剰に直面しており、需給と価格の安定を図るためには、令和3年産の主食用米について、過去最大規模の作付転換が必要な状況となっており、水田フル活用に必要な施策の一環である飼料用稲の作付けは益々役割が高まっている。

このような状況に対処し、わが国畜産の基盤を強化していくためには、昨今の労働力不足に対応した公共牧場・コントラクターの活用や放牧のより一層の普及に加え、飼料の生産性向上や品質改善に向けた優良な飼料作物品種の利用の促進、飼料生産・利用に関する最新の技術情報の提供、強害雑草の駆除等を推進し、草地、畑、水田等地域の飼料基盤を十分に活用した飼料増産による畜産物の低コスト生産を進めることが必要である。

また、これに加え、輸入畜産物等との差別化を図るため、放牧を活用した畜産物や有機畜産物、飼料用稲を給与して生産された畜産物についてその特色等を消費者に対して広くPRするほか、飼料生産現場における廃プラスチック問題への対応について検討を進める等、飼料基盤に立脚した安心・安全な畜産の普及啓発活動を積極的に進めていく必要がある。

(一社)日本草地畜産種子協会は、これらの諸課題に対処するため、我が国の関係者と一体となって飼料生産・放牧技術等に係る情報発信をはじめ全国的な飼料増産の普及啓発等に努めるとともに、会員相互の連携強化のもとに、飼料増産に関する事業を積極的に実施することとし、令和3年度においては、次の事業に取り組むこととする。

II 具体的な事業計画

1 公益事業に係る事業計画

(1) 飼料増産の普及啓発の取り組み

① 飼料増産に係る推進会議等の開催（優良品種の迅速普及事業：応募中）

飼料増産運動を全国で展開するため、国、都道府県等の関係者による会議を開催し、ブロック段階等における飼料増産推進計画を策定するとともに、自給飼料増産の重要性の啓発を行う。

② 飼料増産優良事例調査（優良品種の迅速普及事業：応募中）

（全国自給飼料生産コンクール実施事業）

自給飼料生産の優良事例を広く紹介し自給飼料の生産振興を図るため、飼料用米やコントラクターを含め自給飼料生産に優れた取り組みを行っている各地の事例を調査するとともに、全国自給飼料生産コンクールを開催する。

③ 技術情報の発信（優良品種の迅速普及事業：応募中）

飼料増産の普及啓発のため、飼料増産に関する技術情報誌として「グラス&シード」等を発行するとともに、インターネットを利用した飼料作物の生産・利用技術の紹介等の飼料増産に係る技術情報の発信を行う。

(2) 飼料用稲等の生産振興の取り組み

① 飼料用稲のタンパク質含量改善に向けた調査の実施

（高タンパク飼料用稲調査事業）

タンパク質含量が低いという飼料用稲の問題を克服するため、タンパク質含量の高い品種・系統の選定やタンパク質含量を高め安定させる栽培技術を確立するための調査を行う。

② 飼料稲給与畜産物認証制度の普及・促進（飼料稲給与畜産物認証事業）

飼料用稲を給与した畜産物の差別化、高付加価値化を図るため、飼料用稲を給与して生産される畜産物に係る認証を行う。

(3) 優良品種の普及等による単収や品質の向上の取り組み

① 飼料作物の品種比較試験の実施（優良品種の迅速普及事業：応募中）

飼料作物優良品種の普及を促進し単収向上等を図るため、北海道においては、飼料用とうもろこし 14 品種系統、牧草 4 草種 8 品種の品種比較試験を実施するとともに、都府県においては、飼料用とうもろこし 25 品種系統、ソルガム・スーダング

ラス 14 品種、イタリアンライグラス 26 品種、チモシー 4 品種、その他牧草等 4 草種 17 品種の品種比較試験を実施し、奨励品種の認定に関するデータを取得し、都道府県へ提供する。

② 優良品種の栽培展示圃設置及び利用研修会の開催

(優良品種の迅速普及事業：応募中)

飼料作物の優良品種の利用を進めるため、優良品種の展示圃設置に取り組むとともに、品種特性、栽培体系等をまとめたパンフレットを作成し、これらを活用した栽培利用等に関する研修会を開催する。

③ 地域の気象条件等に即した品種の実証栽培を実施

(粗飼料増産・安定生産対策事業：応募中)

自給飼料生産を行う生産者集団を対象に、単収・品質向上と安定生産を図るため、地域の気象条件等を勘案した最適品種を選定し、作付け・栽培計画の策定とその実践に必要な分析・評価、現地での技術指導等の取組みを行う。

④ 難防除雑草駆除による草地生産性の向上 (草地難防除雑草駆除技術実証事業)

草地の生産性向上を図る上で課題となっている難防除雑草駆除技術の実証及び TMR 生産のための難防除雑草の駆除を推進するため、生産性の低い草地から高位生産草地への転換に必要な経費の一部について助成を行う。

⑤ 多様な環境条件下でも安定多収を示すライグラスの育成

(安定多収・環境耐性ライグラス品種開発事業)

飼料費の低減を通じた安定的な畜産経営を実現するため、牧草の中でも嗜好性・栄養成分に優れるライグラス類について、多様な環境リスク下においても安定多収を示す品種の開発を進め、その能力を活かした栽培利用体系の早期普及を行う。

⑥ DNA マーカー利用による飼料作物選抜等の効率化技術の開発

(すす紋病抵抗性品種選抜マーカー開発事業)

飼料用とうもろこしについて、国内における品種育成と海外から導入する品種・系統の選抜を効率的に進めるため、とうもろこしすす紋病抵抗性に関する主働遺伝子等のマーカー化を進める。

⑦ 飼料作物種子実態調査等の実施 (飼料作物種子安定供給対策事業：応募中)

飼料作物優良品種種子の安定的な供給を図るため、海外における採種状況等を調査するとともに国内における種子の流通実態を調査する。

⑧ 飼料作物生産拡大・生産性向上の技術実証・普及

(ドローン活用飼料増産技術実証・普及事業：応募中)

ドローンを活用し、これまで実施が困難であった急傾斜地や石礫の多い土地へ

のペレニアルライグラスの追播等による植生改善や水稻立毛中の水田へのイタリアンライグラスの播種による単収向上を省力的・低コストで実施する技術等を実証・普及する。

(4) 放牧の推進の取り組み

① 放牧畜産基準の認証制度の普及・促進等（放牧畜産物生産普及推進事業）

放牧畜産の普及を図るため、放牧畜産実践牧場等の認証と放牧畜産基準認証申請に対する現地確認、指導等を行うとともに、放牧畜産農家や流通業者、消費者団体等による全国的なネットワークの活動を推進する取り組みを行う。

② 放牧畜産基準の見直し（放牧畜産物生産普及推進事業）

地域の飼養実態を踏まえた放牧畜産を推進するため、肉用牛の放牧形態に合う認証基準の見直しに向けた現地調査及び検討を行う。

また、アニマルウェルフェアや GAP の認証制度との違いについて調査を行う。

③ 放牧技術研修会の開催及び現地指導（放牧畜産物生産普及推進事業）

生産現場における放牧技術の向上を図るため、普及指導機関や畜産農家等を対象に放牧技術の研修会を開催するとともに、放牧アドバイザー等を現地に派遣し技術指導を行う。

④ 放牧畜産物の流通促進（放牧畜産物生産普及推進事業）

消費者へ放牧畜産物の普及・啓発を図るため、消費地において放牧畜産物が持つ特徴等の理解醸成を図るシンポジウムを開催するとともに、各地でのイベントやコンテスト等への放牧畜産物の出展を行う。

また、放牧を行っている農家が有機認証を目指すためのパンフレットを作成する。

⑤ 放牧型有機畜産に係る調査等の実施（優良品種の迅速普及事業：応募中）

放牧型有機畜産の普及を推進するため、放牧を主体にした畜産経営等を対象とする現地調査及び一般消費者も含めた有機畜産に対する認識に関する調査等を行い、調査結果の分析及び普及方法の検討を行うとともに広範な普及に向けたセミナーの開催を行う。

(5) 公共牧場の機能強化等の取り組み

① 公共牧場長等研修会の開催（優良品種の迅速普及事業：応募中）

公共牧場の利用促進を図るため、全国の公共牧場の管理者や職員等を対象に、公共牧場の新たな活用方法や運営管理技術等をテーマとした研修会を開催する。

- ② **公共牧場利用のマッチング支援**（繁殖肥育一貫経営等育成支援事業：応募中）
公共牧場の利用促進を図るため、公共牧場の員外利用等に関する意向調査を行うとともに、公共牧場の利用を希望する畜産農家とのマッチングを行う。

（６）コントラクター等による国産粗飼料の生産・流通円滑化の取り組み

- ① **コントラクター等従事者の技術向上への支援**（優良品種の迅速普及事業：応募中）
コントラクター等のオペレーターの資質向上を図るため、生産現場に必要な知識及び技術を習得するための研修を行う。
- ② **全国コントラクター等情報連絡会議の開催**（優良品種の迅速普及事業：応募中）
コントラクター及び TMR センターの経営安定に資するため、情報連絡会議を開催し、経営管理技術等のレベルアップを図るとともに、組織間相互の情報交換・共有化を図る。
- ③ **TMR の品質改善に向けた取り組み**（高品質 TMR 供給支援対策事業）
TMR 原料（サイレージ）の品質改善を図るため、TMR センターが行うバンカーサイロの補改修等の取り組みに対して支援を行う。

（７）国産濃厚飼料生産振興の取り組み

- 国産濃厚飼料の生産及び利用の推進**（国産濃厚飼料生産利用推進事業：応募中）
子実用とうもろこしの生産拡大に必要な種子の確保に向けて、国内の種子生産ほ場の条件、ほ場の選定等に関する検討委員会の開催、種子生産技術の検討及び種子生産マニュアルの作成を行うとともに、国内の種子生産に適したほ場の選定調査等を実施する。

（８）消費者へ草地畜産の理解を醸成するための取り組み

- ① **遺伝子組換え種子の混入検査**（優良品種の迅速普及事業：応募中）
海外から輸入される飼料用とうもろこし種子の品質を確保するため、遺伝子組換え体混入種子の検査を行う。
- ② **放牧畜産物への理解醸成**（放牧畜産物生産普及推進事業）
消費者の放牧畜産物への理解醸成を図るため、催事等へ参加し、普及用パンフレットの配布を行うとともに、放牧畜産シンポジウムの開催等を行う。

③ 飼料生産における廃プラスチック対策の推進

(畜産廃プラスチック削減対策推進事業：応募中)

国際的な課題である廃プラスチック問題への対応のため、飼料生産現場におけるサイレージ用ラップフィルムの使用量の削減可能性調査を行う。

2 収益事業に係る事業計画

(1) 飼料作物種子の増殖の取り組み

① 飼料作物優良品種の海外契約採種 (海外契約採種安定化対策事業)

公的機関等で育成された優良な飼料作物品種について、10 草種 18 品種、合計 376t の種子を増殖し、買受け予約のある 523t を販売する。

令和3年度海外契約採種安定化対策事業計画 (数量：t)

種 類	令和3年度 供給				計	令和3年度 売 渡	次期繰越
	繰越 (見込)	生産(入荷)					
		草種	品種	数量			
イタライグラス	151	1	2	202	353	142	211
多年生牧草	590	9	16	174	758	356	402
青刈飼料作物	84	0	0	0	84	25	59
計	825	10	18	376	1,195	523	672

② 飼料用稲種子の増殖配布 (飼料用稲種子増殖配布事業)

令和3年播種用として、17 品種約 328 t の種子を配布した。また、令和4年播種用として、18 品種約 429t の種子を増殖するとともに、原種用として2 品種約 3 t の種子を増殖する。

種子の増殖、配布に当たっては、ロットの細分化、品質管理の徹底等を通じ、優良種子の生産、配布に努める。(数字は更新中)

令和3年増殖・配布計画

品 種 名	令和4年播種用種子増殖計画		令和3年播種用 配布見込量(t)
	面積(ha)	増 殖 量 (t)	
べこごのみ	1.0	6.0	3.6
べこあおば	2.7	16.2	18.1
夢あおば	17.5 (0.2)	105.0 (1.0)	113.7
ホシアオバ	7.0	35.0	0.0
クサホナミ	1.0	6.0	5.7
リーフスター	3.0	7.5	8.0
たちはやて	2.5	10.0	4.7
モミロマン	4.24	21.2	12.6
モグモグあおば	4.0	20.0	19.6
タチアオバ	8.0	40.0	20.9
ミナミユタカ	-	-	4.3
たちすずか	13.5 (0.6)	47.25 (1.8)	37.0
つきすずか	16.0	56.0	35.6
つきことか	2.0	6.0	3.0
たちあやか	8.0	14.4	7.4
ミズホチカラ	4.0	20.0	23.7
みなちから	2.0	10.0	9.8
つきあやか	2.0	4.0	-
つきはやか	2.0	4.0	-
合 計	100.44 (0.8)	428.55 (2.8)	327.7

注) 表中 () 内は原種分で外数である。

③ 飼料作物種子の安定的供給 (飼料作物種子安定供給対策事業: 応募中)

公的機関で育成された飼料作物等優良品種種子の安定的な供給及び自然災害等不測の事態に備えるため、備蓄に必要な計画を策定するとともに、計画的な備蓄及び安定的な供給を行う。

④ 協会育成品種の増殖・販売 (海外契約採種安定化対策事業)

協会が育成したペレニアルライグラスの「道東1号」、イタリアンライグラスの「はやまき18」、シバの「善緑」等について販売を行う。

(2) 飼料作物種子の検査等の取り組み

① 飼料作物の種子検査・証明（飼料作物種子証明事業）

24 草種、合計約 2,300t の種子検査を実施し、証明書を発行する。

令和 3 年度種子検査計画

項 目	令和 3 年度計画	令和 2 年度実績見込み
流通種子検査 (kg)	2,300,000	3,081,431
（内海外増殖輸入分 (kg)）	(1,570,000)	(1,565,977)
根粒菌接種確認 (kg)	80,000	78,972
ほ場検査 (a)	20	0
生産種子検査 (kg)	100	0

② ライグラス類の倍数性の検査（ライグラス倍数性検査事業）

イタリアンライグラス等の倍数性について、会員からの依頼により検査を行う。

③ とうもろこしすず紋病抵抗性遺伝子の検査

（とうもろこしすず紋病抵抗性遺伝子検査事業）

とうもろこしすず紋病抵抗性遺伝子の *Ht1*、*Ht2* について、協会が開発した遺伝子マーカーを用いて、会員等からの依頼により検査を行う。

(3) 飼料作物種子の表示適正化の取り組み

協会が定めた「飼料作物種子表示運用基準」等に基づき、種苗会員による飼料作物種子の包装や証票における品種表示等の適正化を進める。

(4) 出版による広報の取り組み

既刊の出版物の販売に努める。

3 その他

(1) 「農政推進協議会」及び「日本草地学会」等の会員として引き続き活動する。

(2) 「全国コントラクター等経営高度化推進協議会」の事務局として活動する。

(3) 「ふれあい牧場協議会」から協議会の事務を受託する。

(4) 「全国公共牧場協議会」の事務局として活動する。

(5) 「全国放牧畜産ネットワーク協議会」の事務局として活動する。